（様式1）

職業実践力育成プログラム（BP）への申請について

申請日：　令和7年10月10日

①学校名：	東京医科大学大学院　大学院（私立）		②所在地：	〒160－8402 東京都新宿区新宿6－1－1	
③課程名：	看護学研究科修士課程看護学専攻がん看護学分野高度実践看護師コース				
④正規課程／履修証明プログラム：	正規課程（修士）	⑤定員：	6名（令和7年度開設の為、現段階での修了者はなし）	⑥期間：	2年間
⑦責任者：	看護学研究科長　平井和恵		⑧開設年月日：	令和7年4月1日	

⑨申請する課程の目的・概要：	建学の精神「自主自学」と教育ビジョン「社会に出てからも永く活躍できる人材の育成」に基づき、基礎教育で身につけた能力を更に深化させ、高度な看護実践能力および基礎的な教育研究能力を備え、実践現場から看護の質向上に貢献する人材、将来教育研究者として看護学の発展に貢献できる人材養成を目指す。 具体的には、 ・看護実践に基づき見出した諸課題を科学的に分析し、看護の知の創造に結び付けそれを実践に還元する人材 ・高度な専門的知識・技術とそれらを応用する力に裏打ちされた看護を実践することを通して、実践現場の看護の質向上に直接貢献できる人材 ・実践現場および看護基礎教育の場において次世代の育成を担うと共に、将来自立した教育研究者となる人材であり、その基盤として生涯に渡り自ら学び、発展していく力を備えた人材の養成を図る。 特に「がん薬物療法看護」「緩和ケア」に専門性の高いがん看護専門看護師の育成を目指す。

⑩10テーマへの該当					
	1 女性活躍	3 中小企業活性化	5 環境保全	7 医療介護 ○	9 起業
	2 地方創生	4 DX	6 就労支援	8 ビジネス等	10 防災危機管理

⑪履修資格：	学校教育法第102条に規定する大学院に入学することができる者及び本学大学院が認める者 ① 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者及び入学時までに学位を授与される見込みの者 ② 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び入学時までに修了見込みの者 ③ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程(文部科学大臣指定外国大学日本校)を修了した者及び修了見込みの者 ④ 文部科学大臣が外国の大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者及び入学時までに修了見込みの者 ⑤ 外国の大学等において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学時までに学位授与される見込みの者 ⑥ 専修学校の専門課程（文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び入学時までに修了見込みの者 ⑦ 本研究科において個別入学資格審査により大学を卒業した者と同等の学力があると認めた者 上記①～⑦のいずれかに該当する者で、入学時点で各専門分野における看護実務経験を3年以上有する者
⑫対象とする職業の種類：	看護師
⑬身に付けることのできる能力：	（身に付けられる知識、技術、技能） がん看護専門看護師に必要とされる高度看護実践、教育、相談、調整、研究、倫理の実践に必要な知識、技術、技能 （得られる能力） がん看護専門看護師の実践において必要とされる高度看護実践、教育、相談、調整、研究、倫理の実践の能力
⑭教育課程：	【共通基礎科目】は高度な看護実践能力を養う科目として、看護実践の基盤となる看護諸理論について学修する「看護理論特論」、看護実践における倫理的問題・課題を明確にし、関係者間での倫理調整のための基本を学修する「看護倫理特論」(必修 2 単位)、国籍や性など多様な文化をもつ人々の理解とそれに基づく看護について学修する「異文化看護特論」を配置した。また、対象の身体状況を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識・技術を修得する「フィジカルアセスメント」、対象の特性・症状に基づいた薬剤使用の判断、投与後モニタリング、服薬アドヒアランス向上等の援助に必要な知識・技術を修得する「臨床薬理学」、対象の病態生理学的変化をエビデンスに基づき解釈し臨床看護判断を行うために必要な知識・技術を修得する「病態生理学」を配置した（いずれも必修、各 2 単位）。基礎的研究能力を修得する科目として、看護学の研究の意義、基本的な研究方法、研究プロセスについて学修する「看護研究方法論Ⅰ」(必修 2 単位)、保健・医療・福祉における問題の発見と解決に必要な統計学の考え方を理解し、その標準的手法を学修する「医療データサイエンス特論」、量的研究の読解とクリティーク、および看護に関連するデータを用いて統計学的解析手法を学修する「看護研究方法論Ⅱ」を配置した。 基礎的教育能力を修得する科目として、看護学の基礎教育および現任教育の特徴、教育の展開に必要な理論、プロセスについて学修する「看護教育特論」(必修 2 単位)、質の高い看護サービス提供のための基本的なマネジメントにかかる理論・方法について学修する「看護マネジメント特論」(必修 2 単位)、保健・医療・福祉の場において各種ケアを提供する専門職が直面する問題の解決のための具体的援助方法としてコンサルテーションの理論・方法について学修する「コンサルテーション特論」を配置した。 【専門科目】は、がん看護学における主要な概念・理論、様々な援助方法、国内外の最新の知見などを学修する「特論」、特定の課題に対する自己学習とそれに基づく討論を通し探究する「演習」をおく（特論および演習計 14 単位必修）。また、専門看護師の 6 つの役割（実践、調整、倫理調整、コンサルテーション、教育、研究）を果たす能力を修得する「実習」をおく（必修 10 単位）。がん看護学分野の科目としては「がん看護学特論Ⅰ（がん看護学理論）」、「がん看護学特論Ⅱ（がん看護学援助論）」、「がん看護学特論Ⅲ（がんの病態と診断治療）」、「がん看護学特論Ⅳ（がん薬物療法看護）」、「がん看護学特論Ⅴ（緩和ケア）」、「がん看護学演習Ⅰ（エビデンス検索と活用）」、「がん看護学演習Ⅲ（がん看護実践演習）」、「がん看護学実習Ⅰ（診断治療実習）」、「がん看護学実習Ⅱ（役割開発実習）」、「がん看護学実習Ⅲ（高度実践実習：がん薬物療法看護）」、「がん看護学実習Ⅳ（高度実践実習：緩和ケア）」がある。 【研究科目】は、各領域の実践に根差す研究課題を、研究手法、研究倫理などの知識を用いて科学的に分析し、研究論文を作成する科目群である。「課題研究」(必修 4 単位)をおく。

⑮修了要件（修了授業時数等）:	2 年以上在籍し、講義と演習、実習を受講の上、修了要件の必要単位数を修得し、研究指導を受け課題研究論文審査および最終試験に合格することによって本課程を修了する。 共通基礎科目16単位以上（専門看護師教育課程規準「共通科目A」10単位以上、「共通科目B」6単位含む）、専門科目24単位以上（各分野の特論および演習計14単位、実習10単位）、研究科目4単位(課題研究）の計44単位以上。							
⑯修了時に付与される学位・資格等:	修士（看護学）、がん看護専門看護師認定審査受験資格							
⑰総授業時数:	50	単位	⑱要件該当授業時数:	50	単位	⑲要件該当授業時数／総授業時数:	100	%
⑱該当要件	企業等	双方向	○	実務家	○	実地	○	
⑳成績評価の方法:	シラバスに提示する評価方法（小テスト、レポート、授業参加姿勢）で評価を行い、100 点～80 点以上を A、80 点未満～70 点をB、70 点未満～60 点を C、60 点未満を D と評価し D は不合格である。合格した科目の単位を取得することができる。課題研究は審査の上で口頭試問によって最終試験を行い、評価基準に沿って合否を判定する。							
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第１項に定める評価を実施する。内部質保証推進委員会において評価を行う。自己点検・評価報告書については本学HPにて公開する。							
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了者が専門看護師としての役割を職場で適切に果たしているかについて、就業先の上司（看護部長等）への聞き取りや評価を通じて確認し合格状況も把握し、その結果をもとに課程の効果を検証する。							
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	（教育課程の編成） 外部の連携企業等に、本研究科の教育課程の編成に関する意見を聴取する。聴取した意見は研究科委員会で共有・検討し、教育課程の編成の検討に役立てる。							
	（自己点検・評価） 外部の連携企業等に、本研究科の運営に関する意見を聴取し、本学の看護学研究科委員会で意見を取りまとめた自己点検・評価報告書を、自己点検・評価委員会が評価し、さらに内部質保証推進委員会が評価を行う。							
㉔社会人が受講しやすい工夫:	長期履修、夜間・土曜日開講、オンライン受講							
㉕ホームページ:	https://www.tokyo-med.ac.jp/graduate-n/							